

## 平成 21 年度 活動報告

メータオ・クリニック支援の会(JAM)の活動は会員の皆様からの会費によって成り立っています。

2009 年度は 114 名の会員様、57 件のご寄付により、日本事務局が総額 1,082,299 円をお預かりし、その 43.4%を直接クリニックへ拠出いたしました。残りの 24.4%を翌年度以降の活動のための積み立て金に、32.2%を日本国内での活動費、消耗品・備品等の需用費等に充てさせていただきました。

JAM では、より多くの支援がミャンマーへの移民労働者や孤児に届くよう、活動の効率的な実施と JAM の活動にご理解をいただくための広報活動に努めています。

当会の活動に引き続きご理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

### 平成 21 年度における活動の要旨：

発足 2 年目となった平成 21 年度は、看護師に代わって医師を駐在員として派遣し、クリニックの外科病棟において技術支援を行ったほか、院内感染予防活動を実施しました。また、昨年度と同様、クリニックと共同で学校保健プロジェクトを実施するなど、難民・移民の保健・医療に対する支援を行ってきました。2010 年 3 月 31 日現在、運営スタッフ 18 名、賛助会員 108 名、寄付者 15 名です。

### 活動報告：

#### 1) 日本事務局の活動

##### ① 人材派遣と育成

平成 21 年度は梶藍子(看護師)の任期終了後、田辺文(医師)を派遣し、主に外科病棟を中心に技術支援を継続しました。7 月には、第 2 回となるスタディツアーを主催(参加者 16 名)。会員の方に、支援の現場を見て感じてもらう機会となりました。また、国際保健分野での活動の場を提供し、情報共有を図ることで、国際保健に資する人材の育成を行いました。

##### ② 戦略的な広報活動

一般向けにインターネットやリーフレットによる広報活動を行いました。毎月 1 回会報を作成し、会員へ配信するほか、ホームページで公開しました。また、21 年度、新聞、雑誌で取り上げられたものは以下の通りです。

- 2009/06/07 沖縄タイムス「国際支援に関心を 卒業生の前川さん講演」
- 2009/07/25 西日本新聞「命を救う土台 つくる医療人に 長崎大熱研でスキルアップ 難民支援に生きる看護師 梶藍子さん」
- 2009/09/24 朝日新聞「難民診療所 私の原点 看護師 梶さん」
- 2010/01/09 サンデー毎日「国境の病院にて—タイ・メーソット メータオ・クリニック支援の会 田辺文さん」

## 平成 21 年度 活動報告

- 2010/01/12 BAILA 「社会をよくするために、最前線で働く 30 代女子 田辺文さん」

### ③ 総会および帰国報告会の開催

5 月に総会および帰国報告会を同時開催しました(参加者 40 名)。帰国報告会は、2 年の派遣任期を終えて帰国した梶(看護師)による報告です。東京を中心に愛知、大阪などからの参加者もあり、報告会後の懇親会ではスタッフや支援者の間で活発な交流を図ることができました。

### ④ 定例会・勉強会の開催

東京で月一回の定例会を開催し、現地を含めたスタッフ間での情報共有や支援方針の決定、広報資料作り、支援者へのプレゼント発送などの作業を行いました。2 月には、第 1 回となる一般公開による勉強会を開催し、会員や一般参加者を交えて現地の状況を学びました。

### ⑤ 物資の支援

古着	3 件 (スタディツアー訪問時 1 件を含む) 合計:ダンボール 5 箱 約 100kg
車椅子	5 台 (内、日本社会福祉弘済会の事業「空飛ぶ車椅子」より 3 台)

## 2) 現地事務局の活動

### ① 院内感染対策

メータオクリニックでは年間外来患者数 140,937 人、入院患者数 11,013 人(2008 年)とタイ・ミャンマー／ビルマ国境地帯の多くの患者さんを支えています。その中にはマラリア、HIV／AIDS、インフルエンザ、結核等、伝染性疾患を持つ患者さんも多い一方で、受診患者さんは一般的に栄養状態が理想的とは言えず、感染症をうつされやすい人々です。患者、患者間、さらにはクリニックで働く医療従事者への院内感染のリスクが非常に懸念されており、その軽減のため、2005 年に院内感染予防チームが結成されました。現地スタッフはこの感染予防チームに参加し、アドバイザーとして院内での感染予防対策の活動に取り組んでいます。院内感染対策チームでは、医療従事者に対する院内感染予防訓練の実施、標準予防策のガイドラインに基づいた医療スタッフの行動調査および指導、設備の充足などを通じて院内感染の予防に努めています。当会は技術的活動のみならず、結核用マスクの提供、指速乾性アルコール消毒のためのボトルの配布、滅菌機の提供を行いました。

### ② 学校保健支援

タイ・ターク県には、ミャンマー／ビルマ移民の児童ための教育施設が 62 校存在しています。当会はクリニックと共同で学校保健プロジェクトを行っています。初等学年を有する 47 校に対

## 平成 21 年度 活動報告

して学校保健評価を実施。優秀校の表彰式を通して学校保健改善の動機付けを行うと共に、国際 NGO や現地のコミュニティ組織と学校保健改善の評価を共有。前年と比して達成度の高かった学校に対する物資支援。特に遠隔地域に存在し、支援が行き届かない学校を健康モデル校と指定し集中的な支援を行うなど、ミャンマー／ビルマ移民児童の健やかな発育を目指した活動を行ってきました。しかしながら年々増え続ける移民児童数の問題、教師やスタッフの転換の早さに起因する成果の定着の難しさなど問題は多く、今後一層励んでまいりたいと思います。

なお、親元を離れ、移民学校の寄宿舎に生活する思春期の学生を対象に、メンタル・ヘルスについて調査を行いました。周囲の人々からのサポートと、学生の精神状態の間に、肯定的な関係が認められました。

### ③ 外科病棟での勤務を通じた技術支援

メータオクリニックの外科外来および病棟は年間 7074 件(2008 年)の疾患件数を抱えています。疾患は、やけど、労災や事故による外傷、皮膚や皮下の感染症が最も多く、より複雑な小外科手術も行われています。現地スタッフは、外科処置の実地指導、ヘルスアシスタント(メータオクリニックで教育を受け医療スタッフとして診療活動を行うスタッフ)への講義などを行い、現地のニーズを状況に即した知識と技術の向上に努めました。また医療とサービスの質向上委員会に病棟の代表として参加し、前年度の手術成績の分析を報告書として提出、正確な現状の把握と質の向上を目指しました。